

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

1日

仏滅 柳

旧10月19日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

此人罪報

「罪を犯した人の報い」

今自分が置かれている境遇は、過去において自ら選択し、行動した結果です。

善行を積み重ねてきたらよい結果となり、問題のある行動をしてきたら悪い結果となります。

譬喻品には、仏さまの教えに背くという罪を犯した人の報いとして、地獄・餓鬼・畜生の三悪道に堕ちた様子が描かれています。

罪を犯さないために、仏さまの教えを信じ、自分より優れた人の教えを学ぶのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

2日

大安 星

旧10月20日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

断仏種故

だん ぶつ しゆ こ

受斯罪報

じゆ し ざい ほう

「仏種を断ずるが故に この罪報を受けん」

仏種を断ずるといふのは重大な罪です。

「少しぐらいなら仏の道に外れてもよいだろう」という自分勝手な気持ちから楽な道ばかりを選び、やがて「仏の教えなど役に立たない」と考えるようになり、さらには他人も巻き込むと最悪の罪を重ねることになります。

仏の教えとは皆が幸せになるための智慧です。自分だけがいい思いをしようとする、仏種が断たれ罪を犯すことになるので要注意です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

3日

赤口 張

旧10月21日

日曜

妙法蓮華経日宇喻品第三

ぼう し きよう こ

ぎやくざい によ ぜ

謗此経故 獲罪如是

「法華経を謗る罪は かくの如きである」

譬喩品には、仏の教えに背いた報いとして、来世に受ける罪が具体的に挙げられています。

・ラクダやロバとなり重い荷を背負わされる

・大きなへびとなって地を這いずり回る

・人として生まれても、貧困と病のなかで瞋りが増すばかりである

仏さまの智慧をないがしろにしている生き方は、不幸への道を歩んでいることになるという忠告だと受け止めましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

4日

先勝 翼

旧10月22日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

む ち にんちゆう

無智人中

まく せつ しきよう

莫説此経

「無智の人の中で この経を説くことなかれ」

仏さまの教えを信じない人や妨げる人に説いても罪を重ねさせることになります。

まして、その人たちは「誰もが仏に成れる」ということも理解できないでしょう。

そこで無智の人には、むやみに教えを説かず、分別のないままでは大きな報いを受けると反省させ、このままではいけないと気づかせてから、この経（法華経）説くべきだと諭されています。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

5日

友引 軫

旧10月23日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ち え みようりよう

た もん ごう しき

智慧明了 多聞強識

「智慧明了にして 多聞強識」

法華経を説くべき人の十の事例の一つ目。

「智慧明了」とは、智慧が明瞭で、すべてのものごとを正しく理解できる力があること。

「多聞強識」とは、たくさんの教えを聞いて、仏道を歩む強い意志を持っていること。

私たち凡夫は、はじめは仏さまの教えを理解できなくても地道に学び続ける強い意志を持って、いつかは智慧も身に付いてくると信じて進むしかありません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

6日

先負 角

旧10月24日

水曜

妙法蓮華経譬喩品第三

じき しよ ぜん ほん

植諸善本

じん しん けん ご

深心堅固

「諸々の善本を植え

深心堅固ならん」

法華経を説くべき人の十の事例の二つ目。

「善本」とは善い行いのこと。

善い行いは人によって異なることもあり、異なる「善い行い」が衝突することもあります。

日ごろからものごとを深く考え、仏さまの教えに沿った善い行いをしていれば、「善本」が異なることはなくなるはずで。

皆が幸せになれるようにたくさんの「善本」を植えましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

7日

大寒

仏滅 亢

旧10月25日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

じょうしゅう

しん

ふ

しゃく

しんみょう

常修慈心 不惜身命

「常に慈心を修し 身命を惜しまず」

法華経を説くべき人の十の事例の三つ目。

「慈心」とは、仏さまのように常に人を慈しみ、人々の幸せを願う心です。

この「慈心」を養い、人のために行動する際には自らの命も惜しまないという心を持つ人に法華経を説けば、さらに信心を強くすることになるでしょう。

人を慈しむやさしきと、命も惜しまず行動できる強さが何より大事だということです。

妙法蓮華經譬喻品第三

輕賤憎嫉 而懷結恨 此人罪報 汝今復聽 其人命終 入阿鼻獄 具足一劫

劫尽更生 如是展轉 至無數劫 從地獄出 當墮畜生 若狗野干 其形係瘦

享喚疥癩 人所触雁 又復為人 之所惡賤 常困飢渴 骨肉枯竭 生受楚毒

死被瓦石 断仏種故 受斯罪報 若作京駝 或生驢中 身常負重 加諸杖捶

但念水草 余無所知 謗斯經故 獲罪如是 有作野干 來入聚落 身体疥癩

又無一目 為諸童子 之所打擲 受諸苦痛 或時致死 於此死已 更受蟒身

〈中略〉

姪欲熾盛 不捉禽獸 謗斯經故 獲罪如是 告舍利弗 謗斯經者 若說其罪

窮劫不尽 以是因緣 我故語汝 無智人中 莫說此經 若有利根 智慧明了

多聞強識 求仏道者 如是之人 乃可為說 若人曾見 億百千仏 植諸善本

深心堅固 如是之人 乃可為說 若人精進 常修慈心 不惜身命 乃可為說

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

8日

大安 氏

旧10月26日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

離諸凡愚

独处山沢

「諸々の凡愚を離れて

独り山沢に処せん」

法華経を説くべき人の十の事例の四つ目。

凡愚な人々の住む世間を離れ、独り山の中に住んで教えを求めること。

世俗の欲望に振り回される者には教えを説くべきではないということです。

しかし、世間と離れていては仏さまの教えで世間の人を救うことができません。

山中に独りで教えを求める強い心と、街に出て人に尽くせる篤い心が大切なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

9日

赤口 房

旧10月27日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

捨悪知識

しや あく ち しき

親近善友

しん ごん ぜん ぬ

「悪知識を捨てて 善友に親近する」

法華経を説くべき人の十の事例の五つ目。

「知識」とは友人の意味です。

ここでいう「悪知識」とは、自分より劣っている人を見下し、自分が勝れていると思いがらせる相手のことです。

「善友」とは、仏さまの教えを信じ実践している人のことです。

「善友」と親しくしている人には教えを説いても大丈夫ということなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

10日

先勝 心

旧10月28日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

じ かい しょう けつ

持戒清潔

によ じょうみようじゆ

如浄明珠

「持戒清潔なること

浄明珠の如し」

法華経を説くべき人の十の事例の六つ目。

「持戒」とは、仏さまの戒めを守り、身を慎み、常に反省すること。

五戒(殺さない・盗まない・犯さない・嘘をつかない・飲酒しない)だど多くの戒律があります。

自分たちは仏さまに近づく存在だと自覚して、その妨げになるものを禁じるのが戒律です。

その戒律を清らかな珠のように大事に持っていて、人には教えを説いてもよいということです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月11日 月曜

友引 尾

旧10月29日

妙法蓮華経譬喻品第三

にやくにん む しん しち じき にゆうなん

若人無瞋 質直柔軟

「若し人瞋り無く 質直柔軟に」

法華経を説くべき人の十の事例の七つ目。

「瞋り(いかり)」の反対は「愍み(あわれみ)」です。

悪人に対しても瞋ることなく愍み、一切衆生を
憐愍するのが仏さまです

悪事をはたらく人は気の毒な人だと愍み、その
迷いを解こうと努めるのが菩薩行です。

「質直柔軟」は心でいなければ、自分の考えに
執着し、瞋りの炎に包まれて、仏さまの教えも
受け入れられなくなってしまう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

12日

先負 箕

旧10月30日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

お だい しゅ ちゅう

い しょうじょうしん

於大衆中 以清浄心

「大衆の中に於いて 清浄心を以て」

法華経を説くべき人の十の事例の八つ目。

「清浄心」とは、見返りを求めない心。

大勢の人の前で説法すると称賛や報酬が欲しくなってくるものです。

拍手のひとつもないと不安になってきます。

しかし、そのように見返りを求めて説いたのでは大切な教えは伝わりません。

様々な例え話や自在な言葉づかいで、人々を導くためには「清浄心」が大前提です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

13日

大安 斗

旧11月1日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ないしふじゆ

乃至不受

よきよういちげ

余経一偈

「余経の一偈をも受けざる」

法華経を説くべき人の十の事例の九つ目。

「余経」とは、大乘経以外の教えのこと。

自分一人の悟りを目指す小乗の教えや、世間に
尽くす菩薩行を説かない他の教えに心をとらわ
れないようにと説かれています。

また、法華経を読み自分の利益だけを願ひ祈つ
ていても、菩薩行をしていなければ、法華経の
信仰をしているとはいえません。

世の中全体の幸せを祈るのが法華経です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

14日

赤口 女

旧11月2日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ぐぶつ しゃり

によ ぜ ぐ きよう

求仏舎利 如是求経

「仏舎利を求めらるが如く 是の如く経を求め」

「仏舎利」とは、仏さまのご遺骨のこと。

仏舎利を求め、それを供養するような心持で、
仏さまの教えを求め実行し、世に弘めるように
と説かれています。

「法華経の中には仏さまの全身があるのだから、この教えを守っていれば仏舎利塔を建てるには及ばない」という「法師品第十」につながる部分です。

法華経は「仏さまそのもの」ということです。

妙法蓮華經譬喻品第三

告舍利弗 謗斯經者 若說其罪 窮劫不尽 以是因緣 我故語汝

無智人中 莫說此經 若有利根 智慧明了 多聞強識 求仏道者

如是之人 乃可為説 若人曾見 億百千仏 植諸善本 深心堅固

如是之人 乃可為説 若人精進 常修慈心 不惜身命 乃可為説

若人恭敬 無有異心 離諸凡愚 独処山沢 如是之人 乃可為説

又舍利弗 若見有人 捨惡知識 親近善友 如是之人 乃可為説

若見仏子 持戒清潔 如淨明珠 求大乘經 如是之人 乃可為説

若人無瞋 質直柔軟 常愍一切 恭敬諸仏 如是之人 乃可為説

復有仏子 於大衆中 以清淨心 種種因縁 譬諭言辞 説法無碍

如是之人 乃可為説 若有比丘 為一切智 四方求法 合掌頂受

但樂受持 大乘經典 乃至不受 余經一偈 如是之人 乃可為説

如人至心 求仏舍利 如是求經 得已頂受 其人不復 志求余經

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

15日

先勝 虚

旧11月3日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

によ とう い せつ みよう ほ け きよう

汝当為説 妙法華経

「汝まさきに為に 妙法華経を説くべし」

「仏道を歩むとは、どのようなありさまであるか、どのような行為であるか、その十の事例を挙げたが、まだまだ際限がない。あとはこれに準じてよく考えて、妙法華経を説いて導くように」とお釈迦さまは舍利弗に告げて「譬喻品第三」は幕を閉じます。

火宅に住んでいることを自覚し、譬喻品に挙げられて十の事例と自分の心を合わせ見て、法華経の信仰を育んでいきましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

16日

友引 危

旧11月4日

土曜

妙法蓮華経信解品第四

じんげ
信解

「深く信じて理解すること」

ここから「信解品第四」に入ります。

「譬喻品」までのお釈迦さまの説法を聞いた四人の弟子は、自分たちにも仏性があるのだから菩薩行を積んでいけば仏になれるのだと深く信じて、その意味を理解しました。

「信解」、すなわち「信」と「解」がそろって、初めて実行の力が湧いてくるのです。

四人の弟子は信解したその心持ちをお釈迦さまの前で告白するのが「信解品」です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

17

日

先負 室

旧11月5日

日曜

妙法蓮華経信解品第四

え みよう しゆ ぼ だい

慧命須菩提

「解空第一の修行者」

慧命須菩提は、お釈迦さまの説法を信解した四大声聞の一人で「解空(げくう)第一」の修行者です。

「空」とは、物ごとが変化する中に於いても一貫して変わらない真理のことです。

例えば、「人間は皆平等」という真理は一貫して変わらないはずなのに、人種・性別・職業などで差別してしまいがちです。

どんな境遇の人とも平等に接するためには、「空」を理解する「解空」が必要になるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

18日

仏滅 壁

旧11月6日

月曜

妙法蓮華経信解品第四

魔ま訶か迦か旃せん延ねん

「論議第一の修行者」

魔訶迦旃延は、お釈迦さまの説法を信解した四大声聞の一人で「論議第一」の修行者です。

「論議」とは、議論を戦わせることなく、物事を細かく分類し、理解することです。

そして、皆が理解できる言葉を用いて説き明かすことまでを「論議」というのです。

理解したつもりでも、人に伝えるためにさらに学び直せば理解が深まるものです。

「論議第一」が「信解」に至る近道だったので。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

19日

大安 奎

旧11月7日

火曜

妙法蓮華経信解品第四

魔ま訶か迦か葉しょう

「頭陀第一の修行者」

魔訶迦葉は、お釈迦さまの説法を信解した四大声聞の一人で「頭陀第一」の修行者です。

「頭陀」とは、衣食住の欲望をなくすための托鉢を中心とした質素な修行の方法です。

仏の道を進むのであれば世俗の欲望に執着することなど無くなるはずですよ。

自分の利益を捨てることができたら、他者に尽くす菩薩道も容易に進むことができます。

その先に「信解」が見えてくるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

20日

赤口 婁

旧11月8日

水曜

妙法蓮華経信解品第四

ま か もつ けん れん

魔訶目犍連

「神通第一の修行者」

魔訶目犍連は、お釈迦さまの説法を信解した四大声聞の一人で「神通第一」の修行者です。

「神通力」とは不思議な力の意味ですが、一番の神通力は煩惱を無くすことです。

煩惱が無く、迷いが消えたら、どんな境遇にあっても自由が得られるわけです。

仏門における神通力とは不思議な力ではなく、迷いを消す力なのです。

そしてそれもまた「信解」への近道なのでした。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

21日

先勝 胃

旧11月9日

木曜

妙法蓮華経信解品第四

ねん びょう く まい

年竝朽邁

「長老となり、覚ったつもりになっていた」

四大声聞は、お釈迦さまの弟子の筆頭として長老となっていました。

年齢を重ね、世間の煩惱も離れて久しく、名誉や金銭への欲もなく、これ以上望むものはないと思っていたのです。

お釈迦さまの法華経の説法を聞いて、ひと通り浅く覚ってわかったつもりになり、それ以上の悟りを得ようとしていなかったことに気づき懺悔したのです。

妙法蓮華經信解品第四

爾時慧命須菩提。摩訶迦旃延。摩訶迦葉。摩訶目嬰連。

從仏所聞。未曾有法。世尊。授舍利弗。阿耨多羅三藐三菩提記。發希有心。歡喜踊躍。即從座起。整衣服。偏袒右肩。右膝著地。一心合掌。曲躬恭敬。瞻仰尊顏。而白仏言。我等居僧之首。年竝朽邁。自謂已得涅槃。無所堪任。不復進求。

阿耨多羅三藐三菩提。世尊往昔。說法既久。我時在座。身體疲懈。但念空。無相無作。於菩薩法。遊戲神通。淨仏国土。成就衆生。心不喜樂。所以者何。世尊令我等。出於三界。得涅槃証。又今我等。年已朽邁。於仏教化菩薩。

阿耨多羅三藐三菩提。不生一念。好樂之心。我等今於仏前。聞授声聞。阿耨多羅三藐三菩提記。心甚歡喜。得未曾有。不謂於今。忽然得聞。希有之法。深自慶幸。獲大善利。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月 22日

冬至

友引 昴

旧11月10日

金曜

妙法蓮華経信解品第四

たんねんくう

むそうむき

但念空 無相無作

「世間に煩わされないうための三つの条件」

空・無相・無作を「三解脱」といいます。

世間に煩わされないうための条件で、声聞たちが
仏教の全てと思ひ込んでいたものです。

空：物ごとが変化する中に於いても一貫して変
わらない真理

無相：相は姿形のこと。その違いにとらわれず
全てが平等であるという心の持ち方。

無作：作は作用のこと。対象によって差別せ
ず、平等に対処するという振る舞い方。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月23日

先負 畢

旧11月11日

土曜

妙法蓮華経信解品第四

ねん に く まい

年已朽邁

「老齡になっても 仏を目指して励みましよう」

「年竝朽邁」と同じ意味ですが、もう一つ別の視点から。

年齢を重ねると、新しいことを始めようという気力が失せたり、途中であきらめて妥協したりしてしまいがちです。

しかし、仏道の修行は永遠であり、今の一生を終えても、来世に続きがあるのです。

いつかは仏に成るといふ大きな目標に向かって、日々の務めに励みましよう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月24日

仏滅 替

旧11月12日

日曜

妙法蓮華経信解品第四

むりよう ちん ぼう

無量珍宝

ふ ぐ じ たく

不求自得

「無量の珍宝 求めざるにおのずから得たり」

小乗の悟りで十分だと考えていた四大声聞も「三車火宅の喩え」を通してお釈迦さまの本心を理解しました。

四大声聞は、「仏に成れる」という何物にも代えがたい宝を、自ら求めていなかっただけにもかかわらず得られたと大きな喜びを表します。

そして、法華経の教えですでに成仏に向かっているという自覚に至り、その理解を「長者窮子の喩え」として説くのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月25日

天皇誕生日

大安 参

旧11月13日

月曜

妙法蓮華経信解品第四

ちよう じゃ ぐう じ

たと

長者窮子の喩え 1

「心が荒んだ息子の成長を待つ」

ある長者の息子(窮子)が父のもとからはぐれ流浪すること五十余年、長者は父のことがわからないほど荒んだ息子を見つけ、雇い入れ、息子の心が成熟していくのを待ちました。

そして年月が過ぎ、ついには財産の管理まで任せ、互いに信頼しきるようになりました。

やがて父は命終に臨んで、父子の名乗りをあげ、自分の財産・職業の相続を、王侯・大臣はじめ一同の前で披露したのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

26日

赤口 井

旧11月14日

火曜

妙法蓮華経信解品第四

ちよう じゃ ぐう じ

たと

長者窮子の喩え2

「迷いの中にある衆生を徐々に導く」

この喩え話に登場する長者とはお釈迦さま、窮子は私たち衆生を指しています。

父のもとを離れ艱難辛苦を繰り返し、再び父であるお釈迦さまに出会った衆生は、深い教えを受け入れられる状態にはありません。

そこで、衆生の分に応じて導き、徐々に成長させ、相手が本当のことを受け入れられる段階に至って、最後に真実の教えが説かれたのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

27

日

先勝 鬼

旧11月15日

水曜

妙法蓮華経信解品第四

ねん き よう ち

年既幼稚

しや ぶ じようせい

捨父逃逝

「幼いころに父とはぐれる」

息子はまだ幼いころに父とはぐれて、五十余年も流浪することになりました。

幼い子供の頃には清らかな心で、何の迷いもなく過ごしていたはずです。

しかし、年齢を経るにしたがって、利害損得を比べ自己中心的な考えを持つようになってきます。

それが迷いや苦しみの元になり、垢が溜まるように心が荒んでゆくのです。

清純無垢な幼子の心を保てないのが凡夫です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月

28日

友引 柳

旧11月16日

木曜

妙法蓮華経信解品第四

年ねん既き長じょう大だい

加か復ぶ窮ぐう困こん

「年齢を重ね 窮困は増える」

年齢を経るにしたがって経験を積み、人格が形
成されていきます。

心が清い仏さまの世界ならよいのですが、損得
勘定で自分の利益を優先している餓鬼や畜生の
住む世間にいると、経験を積み積むほど心が
貧しくなって行くものです。

年齢を重ねて仏教に惹かれるのは、心が困窮し
ているからかもしれません。

心の中の宝が警告を鳴らしているのです。

妙法蓮華經信解品第四

我等居僧之首。年竝朽邁。自謂已得涅槃。無所堪任。不復進求。阿耨多羅三藐三菩提。世尊往昔。說法既久。我時在座。身體疲懈。但念空。無相無作。於菩薩法。遊戲神通。淨仏国土。成就衆生。心不喜樂。所以者何。世尊令我等。出於三界。得涅槃証。又今我等。年已朽邁。於仏教化菩薩。阿耨多羅三藐三菩提。不生一念。好樂之心。我等今於仏前。聞授声聞。阿耨多羅三藐三菩提記。心甚歡喜。得未曾有。不謂於今。忽然得聞。希有之法。深自慶幸。獲大善利。無量珍寶。不求自得。世尊。我等今者。樂説譬諭。以明斯義。譬若有人。年既幼稚。捨父逃逝。久住佗国。或十。二十。至五十歲。年既長大。加復窮困。馳騁四方。以求衣食。漸漸遊行。遇向本国。其父先来。求子不得。中止一城。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月29日

先負 星

旧11月17日

金曜

妙法蓮華経信解品第四

ごぶせんらい
其父先來
ぐしふとく
求子不得

「父は子を探したが 出会うことができず」

父親は息子とはぐれてから片時も息子のことを
思わぬ時はないほどに、息子の行方を探し続け
て諸国をめぐっていました。

私たちが迷い悩み、罪を犯し過ちを重ねても、
見捨てることなく、心を改め戻って来るまで待
っている仏さまの慈悲に喩えた様子です。

仏さまが迷う衆生を憂い、手を差し伸べても、
衆生にその気がなければ出会うのは難しいとい
うことも表している場面です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月30日

仏滅 張

旧11月18日

土曜

妙法蓮華経信解品第四

ご け だい ふ

其家大富

ざい ほう む りよう

財宝無量

「その家大いに富んで

財宝無量なり」

長者は息子を探して諸国をめぐっても出会うことができず、一つの城に留まります。

この長者は一つの国に本社があり、各国に取引先がある大企業の社長のような存在です。

そのため諸国を訪ね歩くことができたのです。

この娑婆世界の主であるお釈迦さまが、他の仏国土の迷える衆生も救えることの喩えです。

この城の莫大な財宝は、どの仏国土の衆生も救うことができる最高の教えを意味しています。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

12月 31日

大安 張翼

旧11月19日

日曜

妙法蓮華経信解品第四

而未曾向人 説如此事

「しかも未だ人に向かつて此の如き事を説かず」

長者は息子に巡り合いたいと一心に思い続けていても、「息子が家出をして困っている」などと他人の前で口にすることはありませんでした。仏さまが「迷った人間ばかりで困ったものだ」と言われないのと同じです。私たちの至らなさを全てご自身のお心に収めて、救ってくださる仏さまの慈悲の表れです。「従地涌出品」のお釈迦さまと地涌の菩薩の問答でも同じような表現があります。

妙法蓮華經信解品第四

其父先来。求子不得。中止一城。其家大富。財宝無量。

金銀。瑠璃。珊瑚。琥珀。頗黎珠等。其諸倉庫。

悉皆盈溢。多有僮僕。臣佐吏民。象馬車乘。牛羊無數。

出入息利。乃氣佗国。商估賈客。亦甚衆多。時貧窮子。

遊諸聚落。經歷国邑。遂到其父。所止之城。父每念子。

与子離別。五十余年。而未曾向人。說如此事。

但自思惟。心懷悔恨。自念老朽。多有財物。金銀珍宝。

倉庫盈溢。無有子息。一旦終没。財物散失。無所委付。